

2017年5月15日

日本板硝子株式会社

### 2017年3月期通期決算に関する主なご質問

- Q: 2017年3月期の無形資産償却前営業利益が、期初業績見通しに比べわずかに未達となった要因は？
- A: 前年度比円高が進んだことが一番大きな要因です。また、日本の建築用ガラス事業での、建設業界の人手不足によるビル物件の着工遅れ影響や、南米の自動車用ガラス事業の厳しい市場環境の影響もありましたが、2018年3月期には、これらの地域・事業においても収益を改善させてまいります。
- Q: 2017年3月期のフリー・キャッシュ・フロー(203億円の黒字)が前年度より大幅に改善した要因は？
- A: 2017年3月期第1四半期に土地等のセールス・アンド・リースバック取引を行ったこと等、資産売却益で約100億円の収入がありました。また、設備投資・運転資本を継続的にコントロールし、計画に沿って運営ができました。
- Q: 2017年3月期から2018年3月期(見通し)で、無形資産償却前営業利益が50億円増益する要因は？
- A: VA化推進による、製品 Mix の改善、価格の上昇を大きな要因として見込んでいます。原燃材料・輸送費等コスト増加も想定しておりますが、設備の効率化・コスト削減によってカバー致します。
- Q: 米国のオタワ工場の修繕・冷修と再稼働までの費用の業績に与えるインパクトは？
- A: 費用は個別開示項目に織り込んでいます。オタワ工場再稼働までの支援設備での稼働率向上や、保険収入等プラス要因もあり、当期利益に与える影響は軽微です。
- Q: 2018年3月期の見通しで、一部製品の需要が一時的に減少するとのことだが、どの地域・事業か？
- A: 建築用ガラス事業で顧客設備の切り替え等の影響を見込んでいます。
- Q: 2017年3月期第4四半期の高機能ガラス事業の営業利益は前四半期より大きく改善しているが、今後この水準が継続するか？
- A: 2017年3月期第3四半期には一過性のコストが発生していたこともあり、前四半期比改善幅が大きくなっています。2017年3月期第4四半期の状況で今後も推移すると想定しています。
- Q: 2018年3月期の個別開示項目見通しには、米国オタワ工場における今期のみ発生する修繕費用が入っているということだが、それら一過性の費用がない場合、標準的な個別開示項目の水準はどれ位か？
- A: 当社は絶えず不採算・非効率な設備等の入れ替え、見直しを行っており、標準的な場合において、年間数十億円の費用を想定しています。
- Q: MTP フェーズ 2 の計画では、事業利益を中心に利益を積み上げて、自己資本を強化していくということだったが、MTP フェーズ 2 初年度(2018年3月期)の最終利益 80 億円という見通しは、計画発表時の計画線以上か。
- A: 2018年3月期の業績見通しは、概ね MTP フェーズ 2 の計画線の範囲です。

当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場(欧州、日本、北米、アジア等)の経済環境及び製品需給の変動、為替相場の変動等があります。